巻頭言

お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要第 25 号をお届けします。

掲載論文数が大幅に増えた前号（第 24 号）に続き，今号でも原著論文，活動報告，授業報告など，さらに多くの論文を揃えることができました。また，博士後期課程の大学院生だけでなく，博士前期課程の大学院生による論文も多く掲載されています。執筆者それぞれの意欲や探求心もさることながら，裏方として作業を続けてきた紀要スタッフの貢献も，本紀要の端々から感じ取っていただけるかと思います。

前号が発行されてからこれまでの，センターの 1 年を振り返ってみます。2023 年 3 月には「第 2 回公開セミナー」を開催しました。「女性の人生と心理臨床」をテーマに，実行委員，総合司会，分科会の運営・登壇など，大学院生が中心的役割を担って活躍しました。

2023 年 4 月には 14 人の博士前期課程 1 年生と 8 人の博士後期課程 1 年生がセンターのスタッフに加わりました。また，新規相談申込みを数多くいただく状況が続き，4 月 20 日～7 月 2 日には二度目の新規受付一時停止を余儀なくされました。この経験は，適正な業務を安定して続けるためのセンター運営のあり方を改めて検討する契機となり，11 月から相談料金を改定することにもつながりました。

センターでは月 1 回，大学院生スタッフが自主的に活動する「相談室運営」の時間が設けられており，ゲストスピーカーの先生をお招きしての特別講義の枠としても活用されていましたが，コロナ禍の影響もあり，特別講義はしばらく実施されていませんでした。しかし，今年度は 6 月と 11 月に保健管理センター長の精神科医・丸谷俊之先生，7 月に摂食障害の支援活動を行っている NPO 法人の方による特別講義が開催され，大学院生スタッフにとってたいへん貴重な学習機会となりました。

10 月には心理相談補佐員として新たに森本克明さんと笠間歩さんが着任されました。一方，2024 年 2 月末には上地彩香さんが，3 月末には松本晃さんが退職されることになりました。この 2 年間，上地さんと松本さんには，ケース担当やスーパーヴィジョンを通して多くの大学院生スタッフへのご指導をいただき，研究室の壁を越えた臨床指導体制の基盤を作っていただきました。本当にありがとうございました。

学内外への広報活動がまだまだ足りないことを痛感したり，新規導入したレジが作動しなくなったり，各種書式の改訂に苦戦したり，災害級の猛暑のさなかにエアコンが故

障したりと，日々様々な課題に直面しつつ，今年度も皆で知恵を出し合って前に進めたこと，その集大成として本号が無事に完成したことを嬉しく思います。惜しみないご助力をいただいた学内外の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。本紀要をお読みくださった皆様には、ぜひ感想をお寄せいただき、引き続きセンター活動へのご指導ご協力をいただければ幸いです。

心理臨床相談センター長　山田美穂